

高円寺北一丁目～四丁目

阿佐谷南一丁目～二丁目

高円寺南一丁目～五丁目

和田一丁目～三丁目

堀ノ内二丁目～三丁目

松ノ木二丁目～三丁目

梅里一丁目～二丁目



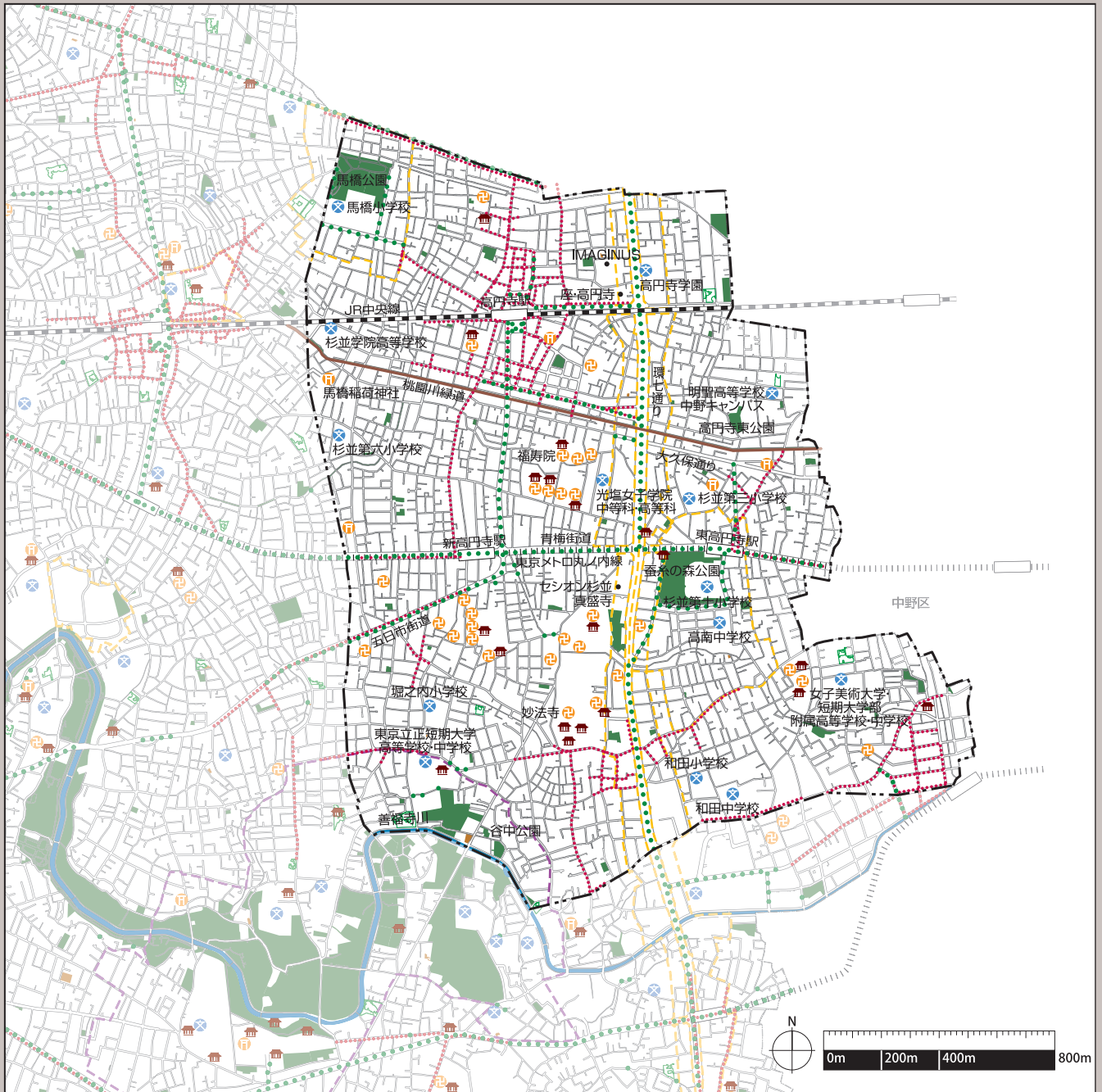
高円寺



高円寺北三丁目 セントラルロード

コウエンジ

5 高円寺地域



区域概要図



凡例

	公園・運動場等		街路樹
	河川、玉川上水		遊歩道・散歩みち
	農地		商店街
	屋敷林		寺社
	地区計画		文化財
	風致地区		学校施設

歴史

この地域は、江戸時代、北側は高円寺村や馬橋村、南側は和田村や堀ノ内村でした。明治22年(1889年)に北側の2村と阿佐ヶ谷村、天沼村、田端村、成宗村が合併し、杉並村となり、南側の2村と和泉村、永福寺村が合併し、和田堀内村となりました。当時は青梅街道沿いに農家が点在する農村地帯でした。大正12年(1923年)に起きた関東大震災後、住宅地として急速に発展し、杉並村は大正13年(1924年)に杉並町に、和田堀内村は大正15年(1926年)に和田堀町になりました。

明治40年(1907年)から43年(1910年)にかけて東京市中から福寿院など4寺院が移転するなど、寺院が集積する寺町が形成されました。

明治22年(1889年)に甲武鉄道(現在のJR中央線)が開通し、中野に隣接する高円寺から宅地化が進み、大正11年(1922年)に高円寺駅が開設されました。また、大正10年(1921年)に青梅街道に堀之内軌道(戦後の都電杉並線)が開通しました。

用途地域*

高円寺駅周辺、青梅街道及び環七通り沿道などは、商業地域及び近隣商業地域です。その他の区域は、第一種低層住居専用地域などです。

地域の北側は、木造住宅が密集しているため東京都建築安全条例による「新たな防火規制区域*」に指定されています。また、環七通り沿道は、沿道地区計画*が指定されるなど、道路交通騒音の防止と商業・業務機能の集積が進んでいます。地域の南側は、和田堀風致地区*となっています。

景観要素

生活的要素

比較的小規模な木造住宅が密集している住宅地です。特に、駅周辺は狭小敷地や賃貸の共同住宅が多く集まっています。

高円寺駅、東高円寺駅及び新高円寺駅周辺は、商業施設や飲食店などが集まり、にぎわいのあるまちなみが形成されています。

自然的要素

蚕糸の森公園や善福寺川流域の和田堀公園などがあり、みどりのオープンスペース*が点在しています。

地域の南端を東西に善福寺川が流れています。

公共的要素

道路としては、南北に環七通り、東西に北から早稲田通り、青梅街道が通っています。

令和4年(2022年)7月には、東京都市計画道路補助線街路第221号線について、東京都から都市計画事業の認可を受け、事業を開始しています。

鉄道としては、北側を東西にJR中央線が走り高円寺駅が、中央を東西に東京メトロ丸ノ内線が走り、東から東高円寺駅、新高円寺駅があります。

公共施設としては、令和5年(2023年)8月に施設改修工事を経てリニューアルオープンしたセシオン杉並があります。セシオン杉並には、ホール、展示室等が整備されており、区の文化教育活動拠点として利用されています。また、区民の各種届出や手続きができる高円寺区民事務所が併設されています。

令和5年(2023年)10月には、旧杉並第四小学校の校舎を改修した「未来をつくる杉並サイエンスラボ IMAGINUS」がオープンし、次世代型科学教育の新たな拠点となっています。

文化的要素

古着屋やライブハウスなどが集積しており、若者や来街者が多く集まるまちとなっている一方、高円寺駅南側の寺町をはじめ、妙法寺などの寺院が集積しています。

また、春の「高円寺びっくり大道芸」、夏の「東京高円寺阿波おどり」、秋の「高円寺フェス」、冬の「高円寺演芸まつり」と一年を通じて個性豊かなイベントが開催されています。また、杉並芸術会館(座・高円寺)は、活気に満ちた文化芸術の活動拠点となっています。